



全国公立学校教頭会通信 5号

きずな

発行 令和4年12月14日

全国公立学校教頭会広報部

電話： 03-3436-4868

Mail： [zenkokyo@kyotokai.jp](mailto:zenkokyo@kyotokai.jp)

HP： <http://www.kyotokai.jp>

## 令和4年度 第63回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会神奈川大会

今年度の関東甲信越ブロック研究大会に全公教広報部員も参加しましたので、その概要をお伝えします。

### 【日程】

- 第1日 11月10日(木) 13:00~16:30 神奈川県民ホール 開会行事、記念講演
- 第2日 11月11日(金) 9:00~15:00 パシフィコ横浜ノース 分科会

### 【概要】

#### ○研究主題

「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」～10年後の新時代を生き抜く力の育成を目指して～

#### ○趣旨(基調提案から抜粋)

開催にあたり、本大会を第12期全国統一研究主題のまとめと第13期へのつなぎと位置づけ、統一主題の中にある「未来」とはいつ頃のことなのかを考えた。第3期教育基本計画の中に示されている「2030年以降」という言葉を踏まえ、10年後の未来を新時代の到来と仮定し、新しい価値に基づいた、教育を目指し、そのための課題を具体的に考えていく必要があると考えた。私たち教職員の使命は、数々の社会問題を自分たちに直接関わる課題として捉え、解決のために他者と思いやりをもって協働しながら、自らの豊かな人生を切り拓き、力強く、たくましく生き抜くことができる子どもを育成することである。また、GIGAスクール構想など、学びの形も大きく変化した新たな教育環境のための条件整備も進めていかなければならない。本大会は、3年ぶりの参集型のよさを生かしながら、児童生徒・教職員にとって「魅力ある学校づくり」につながることを期待したい。

### 【記念講演】

演題：「時代を生き抜く真のたくましさ」～誰もが輝くチームづくり、そのアプローチ～

講師：木村 昌彦 氏 (横浜国立大学教育学部長・全日本柔道連盟強化委員)

鈴木 桂治 氏 (国士舘大学体育学部教授・柔道男子日本代表監督)

※木村氏がコーディネーターとなり、鈴木氏が進める日本代表の組織づくりのポイントをひもときながら、その中には、教育現場にも生かせるものがあることを示唆する内容であった。監督や指導者を教職員、選手を児童生徒に置き換えると見えてくるものがあるのではないかと考える。

#### ○柔道家としての鈴木氏の基本

- ・恩師 斎藤 仁 監督の教え「剛毅木訥(ごうきぼくとつ)」が根底にある。・強くなりたければ教を請う。謙虚でなければ強くなれない。・評論家にならずに、現場を大事にする代表監督でありたい。

#### ○新生全日本柔道男子のビジョン

- ・選手との距離感を近くする。➡対話重視、選手の気持ちを引き出す。「明るく 楽しく いきいきと」をモットーにしているが、「楽をする」と「楽しい」は違う。主体的に取り組む過程を重視する。

#### ○チームづくりのポイント

- ・コーチ時代の反省から、日本代表として「こうあるべき」を一方向的に教え込むのではなく、言いたいことを言える環境にすることで選手の本音を引き出したい。そのために指導者として、質問力の強化(本質を探る問いかけ)が必要➡例 指導者：「だいじょうか?」選手：「だいじょうぶです」本当は大丈夫ではない状況でも、尋ね方によってこう答えてしまう。

#### ○リーダーシップとは、強烈なキャラクターではなく、コミュニケーション力

- ・対話を大事にし、何をどう伝えるのかを明確にする・・・指導者は翻訳者であれ

- ・人に共感されるリーダーでありたい・・・what× How○

※人を何かによって動かすのではなく、どうやれば動くのか(言葉・態度)を追求する。

#### ○組織づくりのポイント

- ・井上康生 前監督は、人を使うことや人選がうまかった。これは真似たい。これに加え、自分の方針を理解してもらった上で、スタッフが生き生きと動ける(やりたいことがやれる)環境を構築していく。
- ・「サポートに役割はあっても優劣なし」を浸透させる。



・武田信玄の言葉「我 人を遣うにあらず その業を遣うべし」の実践

○競技力を向上させるマネジメント

- ・「人・物・金・時間・場所・情報」を効果的に使うこと。
  - ・人・・・発掘→育成→登用→評価→支援 ※機能を高め、チーム力をつけるための人材育成
  - ・時間・・・ゴールの設定→見積もり→配分→活用→評価 ※生産性を高める使い方をしたい
  - ・情報・・・データ、映像、研究成果→使い方次第で、ただの数字、娯楽、ペーパー
- ※収集しているだけではダメ、誰がどう使うかで価値が変わる。学校では、GIGAスクール構想の充実に通ずる  
 ※確かな現状把握に基づき、噂に惑わされず、根拠を大事にすること。インフォメーション(量)とインテリジェンス(質)のバランスと判断力。

○全日本の合宿

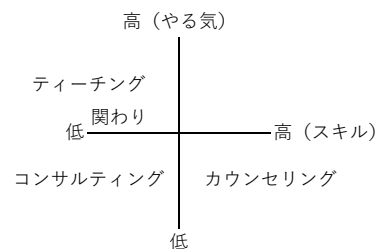
- ・「〇〇ファースト」にはしない。選手やコーチが言ったことや考えたことを自由にやらせるだけではダメ。ともすれば責任転嫁になるので、ゴールを明確化し、それに向かって様々なことを共有する場にする。
- ・技術は、1, 2 週間で向上するものではないので、さまざまな情報提供の場としての機能も大事にしている。コンプライアンス、ドーピング、SNS対応など

○真のたくましさ＝構造化された即興（臨機応変さ）

- ・過去は変えられないが解釈は変えられる。＝失敗をポジティブに捉えることで未来が変わる。
- ・指導者は、意地を張るのと覚悟の違いを教えること、結果が出ない努力からは経験値が得られることを伝える。(声かけのタイミングと内容に注意)

○日本代表の教育手法＝トータル指導

- ・物事を推進する（代表として結果を出す）ための力として（ビジョン）・使命感（ミッション）・情熱（パッション）・行動（アクション）を培う。
- ・いわゆる「ガッツ」＝根性 現代は、昔ながらの根性だけで 乗り切れる時代ではないので、主体的、論理的、客観的に人を 説得できる力（科学的根性論）を大切にしている。



**【分科会】**パシフィコ横浜ノースで分科会を行いました。12 分科会場で活発な協議が展開されました。

| 分科会    | 研究課題       | 研究主題等  |
|--------|------------|--|
| 第 1    | 教育目標・理念    | ・カリキュラム・マネジメントのR-PDCAサイクルにおける副校長の役割ー東京<br>・教育目標の具現化におけるスタートカリキュラムの重要性ー神奈川(横浜)  |
| 第 1A   | 教育課程       | ・教育課程編成・実施のあり方ー山梨<br>・児童の成長を支援し共生社会に生きる児童を育てるー神奈川(鎌倉)                          |
| 第 1B   | 教育課程       | ・活力ある学校づくりのための教育課程の工夫ー茨城<br>・GIGAスクール構想で進める相模原のICT教育ー神奈川(相模原)                  |
| 第 2A   | 子どもの発達     | ・変化に富む現代社会における子どもの発達課題ー埼玉<br>・ユニバーサルデザインと特別支援の視点からの支援の工夫ー神奈川(横浜)               |
| 第 2B   | 子どもの発達     | ・児童生徒一人一人に適切な対応と支援を行うための校内体制づくりー栃木<br>・別室登校生徒への支援の現状と教頭の関わりー神奈川(茅ヶ崎・寒川)        |
| 第 3(1) | 施設・設備及び事務  | ・災害発生に備える学校防災機能の強化ー新潟<br>・避難所・防災拠点としての機能を考えた学校づくりー神奈川(海老名)                     |
| 第 3(2) | 教育行財政      | ・災害時における避難所としての学校の役割ー群馬<br>・「特色ある学校づくり」の推進に係る教育予算を有効活用するマネジメントー神奈川(小田原・足柄下)    |
| 第 3(3) | PTA 及び地域社会 | ・地域とともにある学校における教頭の役割ー千葉<br>・『プラットフォームとしての学校』をめざした関係機関とのよりよい連携のあり方についてー神奈川(相模原) |
| 第 4A   | 組織・運営      | ・豊かな人間性と創造性を育む学校づくりの推進と副校長のあり方ー東京<br>・働き方改革における学校の取組と教頭の役割ー神奈川(川崎)             |
| 第 4B   | 組織・運営      | ・学校運営の活性化と地域との連携ー山梨<br>・「学校リーダーの育成」ー神奈川(横浜)                                    |
| 第 5A   | 教職員の専門性    | ・教職員の資質・能力を伸ばす教頭の役割ー茨城<br>・地域の特色を生かした教職員の育成ー神奈川(足柄下)                           |
| 第 5B   | 教職員の専門性    | ・支援・育成体制の充実を図り、魅力ある教師の育成ー埼玉<br>・生徒指導の専門家としての力を高めるためにー神奈川(川崎)                   |

